

メンターと受講者が相互理解を深め、安心してコミュニケーションできる信頼関係の構築するため、メンターの役割とメンターの心得を整理しましたので、当日ご意見いただければ幸いです。

<p># 役割</p> <p>DX を推進しているロールモデルとなるメンターが、ICT 部門に配属される新入社員に対し、下記の実践的なプログラムを提供する。</p>	<p># 役割</p> <p>DX を推進しているロールモデルとなるメンターが、ICT 部門に配属される新入社員に対し、下記の実践的なプログラムを提供する。</p>
<p># プログラム</p> <p>経験や知見、成功事例やベストプラクティスを紹介する。 実践的なスキルや知識を習得できるよう支援する。 新入社員同士が互いに学び合える場を設ける。 失敗を恐れずに挑戦できる環境を作る。 意見やアイデアを自由に発言できる場を設ける。 多様性を尊重し、互いを尊重する文化を醸成する。</p>	<p># プログラム</p> <p>経験や知見、成功事例やベストプラクティスを紹介する。 実践的なスキルや知識を習得できるよう支援する。 新入社員同士が互いに学び合える場を設ける。 失敗を恐れずに挑戦できる環境を作る。 意見やアイデアを自由に発言できる場を設ける。 多様性を尊重し、互いを尊重する文化を醸成する。</p>
<p># 論点</p> <p>成功体験 社会的説得 間接体験</p>	<p># 論点</p> <p>生存者バイアス 成功体験を押し付け 過度なプレッシャー 対等な関係 共感と尊重 傾聴と理解 客観性と中立性 建設的なフィードバック 忍耐と寛容 継続的なサポート</p>
<p># 期待効果</p> <p>知識、スキル、マインドセットを習得する。 自己効力感と自信・意欲を高め、主体的に仕事に取り組むようになる。 チームワークを重視し、周囲と協力しながら課題を解決できるようになる。 継続的に学習し、成長し続けることができるようになる。</p>	<p># 期待効果</p> <p>メンターと新入社員が相互理解を深め、安心してコミュニケーションできる信頼関係の構築する。 生存者バイアスを考慮したロールモデルストレスを解消する。</p>
<p># 指示</p> <p>上記の論点について、カテゴリ別に、下記の出力サンプルを参考にして、メンターの役割を箇条書き。</p>	<p># 指示</p> <p>上記の論点について、カテゴリ別に、下記の出力サンプルを参考にして、メンターが絶対に回避すべき禁忌事項を抽出し、メンターの心得を箇条書き。</p>
<p># 出力サンプル</p>	<p># 出力サンプル</p>
<p>メンターの役割（論点カテゴリ別）</p> <p>1. 自己効力感の向上 具体的な成功体験を共有する： メンター自身が経験した具体的な成功事例を共有することで、新入社員が「自分にもできる」という自信を育む。 フィードバックと称賛： 新入社員の取り組みや成果に対して、具体的なフィードバックと称賛を与えることで、モチベーションを高め、自己肯定感を育む。 ロールプレイングやシミュレーション： 実際の業務に近い状況を想定したロールプレイングやシミュレーションを通して、新入社員が自信を持って行動できるよう支援する。</p>	<p>メンターが絶対に回避すべき禁忌事項と心得</p> <p>1. 生存者バイアスに基づく成功体験の押し付け メンター自身の成功体験は、個々の状況や環境によって再現可能とは限らない。 新入社員の個性や強みを尊重し、彼らの成功体験を導き出すサポートに重点を置く。</p> <p>2. 過度なプレッシャーによる新入社員の追い詰め 新入社員はそれぞれ異なるペースで成長していく。 個々の能力や進捗を尊重し、無理のない目標設定とサポートを行う。</p>

## 2. 社会的説得

仲間との交流を促進:

新入社員同士が交流できる場を設け、互いに励まし合い、高め合うことができる環境を作る。

先輩社員との交流:

経験豊富な先輩社員との交流機会を設け、新入社員がロールモデルを見つけることができるようにする。

コミュニティ形成:

コミュニティを形成し、情報共有や相互学習の場を提供する。

## 3. 間接体験

事例紹介:

過去の成功事例やベストプラクティスを収集・分析し、新入社員が参考となるように紹介する。

研修や講演会:

DX 推進に関する研修や講演会を開催し、新入社員が最新の知識や情報を習得できるようにする。

メンタリングプログラム:

経験豊富な社員がメンターとなり、新入社員に個別指導を行うプログラムを実施する。

## 4. 心理的安全性の確保

アクティブリスニング:

新入社員の話を熱心に聞き、共感を示すことで、心理的な安全性を確保する。

フィードバックの仕方:

建設的なフィードバックを心がけ、新入社員が安心して挑戦できる環境を作る。

多様性の尊重:

異なる意見や考え方を尊重し、誰もが自由に発言できる場を作る。

## 5. 組織効力感の醸成

共通の目標設定:

チーム全体の目標を共有し、新入社員が組織の一員としての責任感を持つようにする。

チームワークを重視した活動:

チームワークを必要とするプロジェクトや研修を実施し、協調性やコミュニケーション能力を向上させる。

成果の共有:

チームの成果を共有し、メンバー同士で称賛し合うことで、組織全体の士気を高める。

## 6. 継続的な学習

オンデマンド型研修:

新入社員がいつでもどこでも学習できるよう、オンデマンド型の研修プログラムを提供する。

e ラーニング:

DX 推進に関する e ラーニングコンテンツを用意し、新入社員が自学自習できる環境を作る。

キャリアパス:

新入社員のキャリア目標を明確にし、必要なスキルや知識を習得できるよう支援する。

これらの役割を参考に、メンターは新入社員一人ひとりに寄り添い、

3. 失敗を責めるのではなく、学びの機会と捉える  
失敗は成長の過程において不可欠な要素。

新入社員の失敗を責めるのではなく、そこから学ぶ機会として捉え、適切なアドバイスを提供する。

## 4. 非対等な関係の構築

メンターと新入社員は対等な関係であることを認識し、互いに学び合う姿勢を持ち込む。

新入社員の意見やアイデアを尊重し、積極的に受け入れる。

## 5. 新入社員の声に耳を傾けない

新入社員の悩みや不安にしっかりと耳を傾け、共感し、サポートする。

新入社員の意見やアイデアを積極的に引き出し、活かす。

## 6. 具体的なアドバイスやフィードバックの欠如

新入社員の具体的な状況や課題を理解し、それに基づいた具体的なアドバイスやフィードバックを提供する。

定期的な振り返りを行い、進捗状況を確認しながら、必要に応じてサポート内容を調整する。

## 7. 新入社員の成長への関心の欠如

新入社員の成長を常に意識し、積極的にサポートを行う。

新入社員の目標達成に向けて、必要な知識やスキルを習得できるよう支援する。

これらの心得を踏まえ、メンターは新入社員にとってロールモデルとなる存在となり、彼らの DX 人材としての成長をサポートする。

DX 推進に必要な知識、スキル、マインドセットを習得できるよう支援する。	
--------------------------------------	--

みなさんの心に突き刺さったキーワードについて挙手・発表いただけたことで、多様な感性と深い思考を発見でき感銘を受けました。一方で、活発なディスカッションの時間を確保できなかったことは今回の反省点として、今後の展開を充実させたいと考えています。

また、みなさんの希望に満ち溢れたキャリアパスを拝見し、さらなる熱い意志が沸き上がっています。今回は主体的かつ積極的に参加いただき、ありがとうございました。みなさんの今後の活躍を心より応援しています！

## AI ツールを使い倒す人材とは？

AI ツールを使いこなせる人材は、単にツールを使いこなせるだけでなく、AI の特性を理解し、ビジネス課題解決に活用できる人材です。以下、5 つの特徴と、それぞれの要素を具体的に説明します。

### 1. 課題解決能力：

- ・ 課題の本質を捉え、AI で解決できる課題を特定できる
- ・ 複雑な問題を分解し、AI で解決可能な要素を抽出する能力
- ・ 過去のデータ分析や市場調査を通して、課題の背景や原因を正確に把握する能力
- ・ 適切な AI ツールを選定し、目的達成に繋がられる
- ・ それぞれの AI ツールの機能や強みを理解し、課題解決に最適なツールを選択する能力
- ・ ツールの使い方だけでなく、データの前処理やモデルのチューニングなど、AI 活用の技術的な知識も有する
- ・ AI ツールを活用した具体的な解決策を提案できる
- ・ 単にツールの結果を報告するだけでなく、結果を分析し、ビジネス上の意思決定に役立てられるような提案を行う能力
- ・ 関係者とのコミュニケーション能力も重要

### 2. データ分析力：

- ・ データの収集・整理・加工・分析を適切に行える
- ・ 必要なデータを収集するための情報収集能力
- ・ 収集したデータをクリーニングし、分析に使えるように加工する能力
- ・ 統計分析や機械学習の知識を活用し、データから意味のある情報を抽出する能力
- ・ データ分析結果を解釈し、ビジネスに活かせる
- ・ 分析結果から得られた知見を、ビジネス上の意思決定に繋がられるように解釈する能力
- ・ データ分析結果を分かりやすく可視化し、関係者に伝えるコミュニケーション能力

### 3. AI 倫理への理解：

- ・ AI 開発・利用における倫理的な問題を理解し、適切に対応できる
- ・ 人種・性別・年齢などの偏見を助長するような AI 開発・利用を避ける倫理観
- ・ AI によるプライバシー侵害や情報セキュリティリスクへの対策
- ・ 説明責任の所在や透明性の確保
- ・ AI の社会的な影響を認識し、責任ある利用を心がける
- ・ AI による雇用喪失や格差拡大などの社会的な問題への意識
- ・ AI 技術の悪用を防ぎ、持続可能な社会の発展に貢献する意識

### 4. チームワーク：

- ・ 異なる専門性を持つメンバーと協力し、プロジェクトを成功に導ける
- ・ プログラマー、データサイエンティスト、ビジネスコンサルタントなど、異なる専門性を持つメンバーと協働する能力
- ・ チーム全体の目標達成のために、積極的に貢献する意欲と責任感
- ・ 円滑なコミュニケーション能力

### 5. 継続的な学習：

- ・ AI 技術の進歩を常に把握し、新しい知識を習得する
- ・ 最新の AI 論文や書籍を読み、最新の技術動向を把握する能力
- ・ オンライン講座や研修に参加するなど、積極的に学習する姿勢
- ・ 変化に対応し、新しいスキルを習得できる柔軟性
- ・ AI 技術は日々進化しており、常に新しい知識やスキルを習得する必要がある
- ・ 変化を恐れず、新しいことに挑戦するチャレンジ精神

これらの 5 つの特徴に加え、以下のようなスキルも重要です。

- ・ 創造性：AI ツールを組み合わせた新しいアイデアを生み出す能力
- ・ プレゼンテーション能力：AI 活用の成果を関係者に分かりやすく説明する能力
- ・ コミュニケーション能力：関係者との円滑なコミュニケーション

AI ツールを使い倒す人材は、今後ますます求められる存在となるでしょう。上記で紹介した特徴を意識し、積極的に学び続

けることで、AI 時代を生き抜くためのスキルを磨いていきましょう。

スピーディーな実現を可能にする「Will・Can・Must」教育カリキュラム体験：刺激的な学びと行動変容への道

「Will・Can・Must」教育カリキュラムに参加されたとのこと、貴重な体験談をお聞かせいただきありがとうございます。

スピーディーな実現を可能にするこのカリキュラムは、「Will（やりたいこと）」、「Can（できること）」、\*\*「Must（やらなければならないこと）」\*\*の3つの要素を軸に構成されています。

参加者全員が今後の行動に変化を及ぼす刺激を得られたとのこと、大変喜ばしいことです。カリキュラムを通して、以下のような学びと行動変容が促進されたと考えられます。

1. 自己理解の深まり：

- ・ 自分の「Will」\*\*（真の望み）\*\*を明確にすることで、人生や仕事における羅針盤を得ることができます。
- ・ 現在の「Can」\*\*（能力やスキル）と「Must」（役割や責任）\*\*を客観的に把握することで、自身の強みや課題を認識することができます。
- ・ この自己理解に基づき、ギャップを埋めるための具体的な行動計画を立てることができます。

2. 相互学習による気づき：

- ・ 参加者同士のディスカッションやグループワークを通して、異なる視点や経験から学ぶことができます。
- ・ 自分の「Will」\*\*（やりたいこと）や「Can」（できること）\*\*を共有することで、新たなアイデアや可能性を発見することができます。
- ・ 相互の「Must」\*\*（やらなければならないこと）\*\*を理解することで、協力体制を築き、より大きな目標達成を目指すことができます。

3. 行動変容への刺激：

- ・ カリキュラムを通して得られた学びを、具体的な行動に移すためのモチベーションを高めることができます。
- ・ 仲間との相互サポートや励まし合いによって、行動変容を継続することができます。
- ・ 短期的な目標達成を通して成功体験を積み重ね、自信と意欲を高めることができます。

今回の体験が、あなたにとって今後の行動変容のきっかけとなり、より充実した人生やキャリアを送るための指針となることを願っております。

「Will・Can・Must」教育カリキュラムは、今後も多くの方に学びの場を提供し、一人ひとりの成長と組織全体の活性化に貢献していきます。

以下、今回の体験談をより深めるための質問です。

- ・ カリキュラムを通して、特に印象に残ったことは何ですか？
- ・ 自分の「Will」（やりたいこと）、「Can」（できること）、「Must」\*\*（やらなければならないこと）\*\*について、どのような気づきを得ましたか？
- ・ 今後の行動にどのような変化を取り入れたいですか？
- ・ 今回の体験を通して、周囲の方々に伝えたいことはありますか？

これらの質問への回答をぜひお聞かせください。

皆様の学びと成長を心より応援しております。